

広報

活力あふれ

ひとが輝く

安らぎのまち

# 伊万里

平成24年度 予算特集号



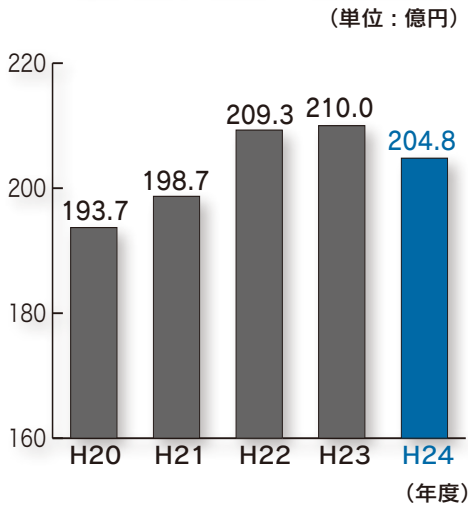
伊万里っ子キッズスポーツフェスティバル  
(平成24年3月20日：国見台陸上競技場)

# 一般会計

平成 24 年度当初予算総額

# 204億8400万円

## 一般会計予算額の年度別推移

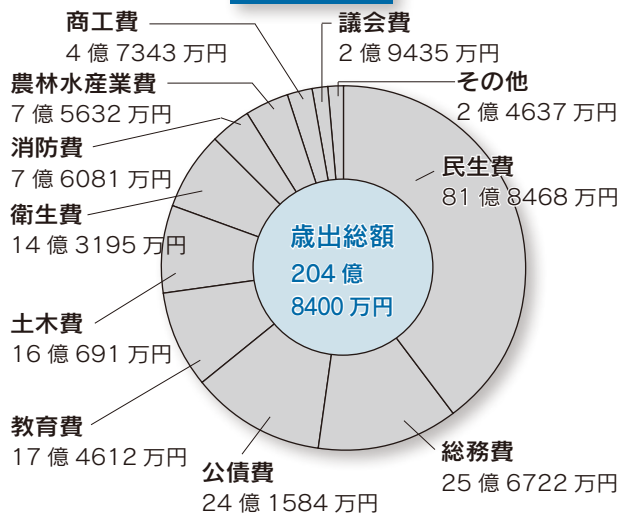


※平成 22 年度は6月補正後

その結果、平成24年度の伊万里市一般会計予算は、総額で204億8400万円となりました。これは、平成23年度と比較すると、2.4%の減少となります。

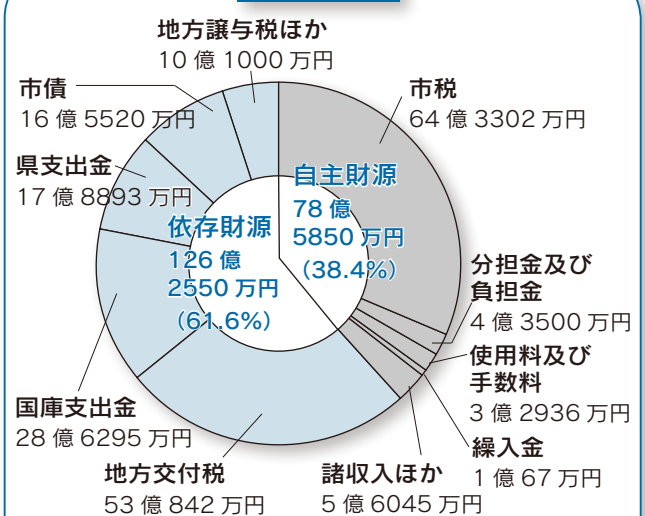
長引く景気の低迷に加え急激な円高の影響などにより輸出産業を中心に大きな打撃を受けており、法人市民税など税収の伸びも期待できないことから、厳しい財政状況が予想されます。このため、行財政改革の着実な推進により経費縮減と歳入確保を図るとともに、既存事業の徹底した見直しにより、限られた財源のなかで緊急性、効率性に配慮した予算編成に努めました。歳入については、固定資産の評価替えなどにより市税が減収となるものの、普通交付税は前年度より増額で見込み、基金繰入や市債などにより財源の確保に努めました。一方、歳出については、都市計画道路路陣内白野線の整備工事や住宅リフォーム緊急整備事業、二里小学校の校舎改築に向けた実施設計、国見台体育施設の改修事業などに重点的な投資をいつつ、子育て支援策の充実や保健活動の推進、農林業および商業・観光の振興、学校教育の推進、消防・救急体制の充実などのために限られた財源を有効に配分した予算の編成を行いました。

## 歳出



- 民生費……………社会福祉や児童福祉、生活保護など市民の安定した生活を保障する経費です
- 総務費……………企画、男女協働、国際交流など、主に総務部門に要する経費です
- 公債費……………借入金の返済に要する経費です
- 教育費……………小・中学校の学校教育をはじめ、社会教育や保健体育など教育全般の経費です
- 土木費……………道路、河川、住宅、公園、市街地などの整備や維持管理に要する経費です
- 衛生費……………保健衛生、ごみの収集・処理などに要する経費です
- 消防費……………火災など災害に対応するための経費です
- 農林水産業費…農林水産業の振興に要する経費です
- 商工費……………商工業や観光の振興に要する経費です
- 議会費……………議会運営に要する経費です
- その他……………労働費、諸支出金、災害復旧費などです

## 歳入



- 市税……………個人と法人の市民税、固定資産税、たばこ税などです
- 分担金・負担金…災害復旧事業の負担金、保育園の入所負担金などです
- 使用料・手数料…施設の使用料、戸籍や住民票の謄・抄本の手数料などです
- 繰入金……………基金や特別会計からの繰入金です
- 諸収入……………雑入などです
- 地方交付税……………国が徴収した税金から、地方公共団体が等しく事務を進められるよう一定の基準で交付されるものです
- 国庫支出金……………国からの負担金や補助金です
- 県支出金……………県からの負担金や補助金です
- 市債……………市が行う事業の財源として、国や金融機関などから借り入れる借入金です
- 地方譲与税……………国税から譲与されるものです

**表1** 特別会計予算額

特別会計名	予算額
国民健康保険	65億3,928万円
介護保険	55億6,861万円
立花台地開発事業	905万円
公共下水道事業	20億7,027万円
農業集落排水事業	1億1,634万円
市営駐車場	1,231万円
後期高齢者医療	13億1,146万円
計	156億2,732万円

**表2** 企業会計予算額

区分	水道事業	工業用水道事業
収益的収支	収入	13億3,382万円
	支出	10億4,342万円
資本的収支	収入	6億1,356万円
	支出	4億6,446万円
	収入	13億1,255万円
	支出	5億4,308万円

**表3** 市債現在高

会計区分	現在高	
一般会計	208億8,516万円	
特別会計	公共下水道事業	137億4,896万円
	農業集落排水事業	12億2,995万円
計	358億6,407万円	

会計区分	現在高	
企業会計	水道事業	47億6,364万円
	工業用水道事業	152億6,642万円
計	200億3,006万円	

※平成24年3月補正後の金額です  
 ※主な借入先は、財務省、地方公共団体金融機構、佐賀県、市中金融機関などです

# 特別会計



市では、一般会計のほか、特定の事業を行うときに、特定の収入をもってその支出に充て、一般会計と区分して経理する必要があるものとして『特別会計』を設けています。平成24年度は、表1のとおり

り7つの特別会計を設けて事業を実施します。これら特別会計の予算総額は、156億2732万円となっています。

- 国民健康保険特別会計  
国民健康保険税や国庫支出金を主な財源として、医療給付を行うための会計です
- 介護保険特別会計  
介護保険料や国庫支出金を主な財源として、介護サービスを行うための会計です
- 立花台地開発事業特別会計  
公共事業に伴う代替地供給を目的とした、宅地開発を行うための会計です
- 公共下水道事業特別会計  
快適な生活環境の実現をめ

ざし、下水道整備や処理場の維持管理を行うための会計です

- 農業集落排水事業特別会計  
農村地域の快適な生活環境の実現をめざし、排水事業を行うための会計です
- 市営駐車場特別会計  
中心市街地や商店街などへの来訪者の利便を図る目的で設置している市営駐車場を管理・運営するための会計です
- 後期高齢者医療特別会計  
『後期高齢者医療制度』の適用を受ける75歳以上の高齢者と65歳以上で一定の障害がある人から徴収した保

# 企業会計

除料を佐賀県後期高齢者医療広域連合へ納付する会計です

市では、特別会計の中でも経営成績を明確にするため、『地方公営企業法』の適用を受けるものとして、次の2つの企業会計を設けています。それぞれ別の会計ごとの予算額は表2のとおりです。

- 水道事業特別会計  
安心して飲める水を供給するため、水道使用料などを財源に、事業運営や施設整備などを行う会計です

# 市債現在高

市が建設事業などを行う際に、その財源の一部として、国や県、金融機関などから借り入れた市債の現在高は、表3のとおりです。

■工業用水道事業特別会計  
工業用水を供給するため、使用料などを財源に、事業運営や施設整備などを行う会計です



# 伸びゆく伊万里

## 豊かで自立した地域社会をめざし

## 不退転の決意で挑戦

平成24年第1回定例市議会（3月議会）で、塚部市長が平成24年度の市政運営についての所信表明を行いました。ここでは、その主な内容を紹介します。

### 平成24年 第1回定例会 所信表明

#### はじめに

平成14年4月に市長に就任して以来、これまで10年の間、前例にとらわれない新たな発想のもと、市民が主役の活気に満ちた地域社会の実現をめざし市政運営に邁進してきま

した。

特に、市勢発展の根幹となる都市基盤や産業基盤の整備、さらには尊い命と健康を守る地域医療の確保に全力を傾注してきたところです。市民の皆さんとの協働によって積み重ねてきた努力に



伊万里市長  
塚部 芳和

#### 時代潮流と社会情勢

より、そのプロジェクトの一つひとつが実を結び姿を現した今、私は、この10年を節目として初心に立ち返り、未来に向かって大きく伸びゆく伊万里市づくりに向け、さらに精力的に取り組んでいく覚悟です。

さて、我が国の経済は、世界的な金融危機や昨年のも東日本大震災の影響から緩やかながら回復基調にあるものの、依然としてデフレが継続するとともに、戦後最高水準の高に伴い製造業を中心として産業の空洞化と雇用情勢の悪化が懸念される状況にあります。

このため、国においては、大震災と福島第一原子力発電所事故からの復活への取り組みをはじめ、経済成長と財政健全化を両立する経済運営の

#### 市政運営の基本方針

実現と、新成長戦略の実行の加速を一体的に位置づけた日本再生の基本戦略が構築されるところにも、少子高齢化社会に対応する持続可能な社会保障制度改革や地方の権限を拡大するための地域主権改革が推進されています。

また、地方においても、これまでの想定を超えた異常気象への備えやさまざまな危機管理への対応をはじめ、急激に進行する少子高齢化や人口減少、さらには長引く景気低迷に伴う財政の悪化など、極めて困難な課題に直面している状況にあります。

このような状況の中、地方自治体においては、これまでも増して効率的な行財政運営が強く求められる一方で、地域主権の考えのもと地域の実情に応じたきめ細かな行政サービスを提供していく必要があります。

このため、私は、いま一度地方自治の原点に立ち、市民の皆さんが安心していきいきと暮らす豊かで自立した地域社会の形成をめざし、立ちはだかる政策課題に対し不退転の決意をもって取り組みます。

伊万里港水深13m岸壁

西九州自動車道

広域ごみ処理施設

# 未来へ向かって

## 主要な施策

政策の推進にあたっては、総合計画に定めた将来都市像である『活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち 伊万里』の実現のため、重点的な事業の展開に努めます。

### 安心と安全の確保

風水害をはじめ、地震や津波、原発事故などの災害に対する防災体制を強化するため、専門部署として総務部内に防災危機管理室を設置しました。

また、原子力災害への備えとして、地域防災計画におい

て新たに原子力災害対策編の策定に取り組むほか、災害時における自主的で円滑な避難を促すため住民自らの手による防災マップ作成の全庁的な取り組みを進めます。

さらに、有田町とともに整備を進めてきた伊万里有田共立病院が3月1日に開院したことから、今後は圏域の医療機関との連携強化を図るとともに、休日・夜間急患医療センターを4月に新築移転するなど地域医療の充実に努めるほか、子どもの入院時の医療費助成の対象を中学生にまで拡大するなど子育て支援の充実に努めます。

このほか、上水道の第9次拡張については、井手口川ダムを水源に新たに整備した浄水場から水道水の供給を開始するとともに、県西部4市5町で整備を進めている広域ごみ処理施設については、敷地や取付道路の造成をはじめ施設の実設計に着手するなど事業の推進を図ります。

### 将来に向けたひとづくり

未来の伊万里を担う子どもの教育環境の充実を図るため、二里小学校の校舎改築に向け実施設計を行うことも

に、少子化の影響により児童生徒数が減少する中で適正な学校規模について検討を進めるほか、スポーツ活動の中核的施設である国見台公園において、陸上競技場の第3種公認更新のための整備を進めるとともに、子ども用のプールについても再開に向け改修に取り組みます。

また、中国大連市との友好交流25周年を記念して、市民訪問団を大連市へ派遣し人的交流の拡大を図るほか、地域づくりのリーダー育成のため農山漁村の資源を生かしたまちづくりをテーマとして10年ぶりに海外研修を実施します。

### 活力あるまちづくり

鍋島の伝統を受け継ぐ伊万里焼や高い評価を受ける伊万里牛など、全国的に知られる伊万里ブランドの高級なイメージを活用し、さらなるブランド製品の開発強化に努めるほか、本市の玄関口である伊万里駅に観光の専門部署を設置し、市外からの交流人口の拡大に向け観光協会との緊密な連携のもと新たな観光戦

略を展開します。

日本海側拠点港に選定された伊万里港については、大型化するコンテナ船への対応として、念願の水深13メートル岸壁の今年度完成とあわせガントリークレーンが設置されることから、官民一体となつて、さらなる集荷活動と新規航路の開設に取り組むほか、全庁にまたがる伊万里湾開発に関する業務を一元化し強化するため、政策経営部内に担当部署を設置しました。

また、長年の課題であった松島搦地区の浸水対策としてポンプ場の整備に取り組むとともに、都市計画道路大坪木須線については市道から県道への格上げを行い、早期開通をめざし整備促進に努めます。

さらに、伊万里港の物流の効率化を図るため、伊万里湾大橋の4車線化をはじめ臨港道路七ツ島線の早期整備を促進するほか、地域間の連携と交流のための交通網として、福岡都市圏とつながる西九州自動車道や有田町へのアクセス向上のためのセラミックロードの整備を促進します。

※次ページからは、主要な施策の概要と予算などについて、総合計画の5つのまちづくりの目標に沿って説明します。